



公益財団法人愛知県文化振興事業団

2022年1月23日(日)  
愛知県芸術劇場  
(公益財団法人愛知県文化振興事業団)  
広報・マーケティンググループ  
☎ 052-955-5506

<Press Release>

報道各位

速報



第21回

AAF 戯曲賞

Aichi Arts Foundation Drama Award

## 受賞作品決定についてのお知らせ

約7時間にわたる白熱した議論の末、大賞・特別賞が決定！

本日、1月23日(日)に開催しました「第21回AAF戯曲賞」の公開最終審査会において、大賞および特別賞が決定しました。

今回は、115作品を、ダンス、演劇、美術などのフィールドで活躍する岩淵貞太(ダンサー・振付家)、鳴海康平(演出家・「第七劇場」代表)、羊屋白玉(演出家・劇作家・俳優・「指輪ホテル」芸術監督)、やなぎみわ(アーティスト)の4名が審査。選考にあたり、審査員が全作品を読み終えた後、一次、二次、最終審査と3回におよぶ審査を実施しました。

最終審査では、観客の前で熱い議論を繰り広げた末、ノミネートした8作品から大賞(1作品)に『<sup>しやけ</sup>鮭<sup>し</sup>なら死んでるひよこたち』(守安久二子)、特別賞(1作品)に『<sup>じけん</sup>事件』(村川拓也)が選出されました。大賞受賞作品の『鮭なら死んでるひよこたち』は、2023年度以降に当劇場のプロデュース公演として、愛知県芸術劇場小ホールにて上演する予定です。

### AAF 戯曲賞とは…

2000年より開始した、上演を前提とした戯曲賞。当劇場主催のもと、次代を担う劇作家および後世に残す戯曲を発掘。作家と演出家・作品と観客が出会い、価値観を創出することを目的としている。15年より「戯曲とは何か」というコンセプトを掲げ、演劇の可能性に挑戦し続けている。

### お問合せ

愛知県芸術劇場(公益財団法人愛知県文化振興事業団)  
広報・マーケティンググループ(武石) 企画制作グループ(山本)

〒461-8525 名古屋市東区東桜1-13-2 Tel 052-955-5506 Fax 052-971-5541

E-mail: [pr@aaf.or.jp](mailto:pr@aaf.or.jp) WEB: <https://www-stage.aac.pref.aichi.jp>





左から、鳴海康平、岩淵貞太、守安久二子(大賞受賞者)、羊屋白玉、  
※やなぎみわはオンライン参加のため不在。

## 大賞(1作品) | 『鮭なら死んでるひよこたち』 守安久二子

作品概要(応募者原文)は別紙のとおり



### 大賞受賞者プロフィール

2019年3月:「草の家」で第一回 TOON 戯曲賞大賞 観客賞受賞

2020年2月:東温シアターNESTで上演

2021年2月:スズナリで上演

## 特別賞(1作品) | 『事件』 村川拓也

作品概要(応募者原文)は別紙のとおり

### 特別賞受賞者プロフィール

ドキュメンタリーやフィールドワークの手法を用いた作品を発表している。虚構と現実の境界に生まれる作品群は、表現の方法論を問い直すだけでなく、現実世界での生のリアリティとは何かを模索する。

作者：守安久二子

タイトル：鮭なら死んでるひよこたち

作品概要：

季節は秋。坂の多いどこかの街の広場。枯れ葉ロータリー。奥には立派であったろう石柱の門。その先はかなりな下り坂で、池があるようだがそれ以外は何も見えない。

ムー（男）とフー（女）。彼らは、カラーひよこを売る流しのテキ屋である。平らな場所を捜す二人。下校途中の小学生を待っている。世間的には、肩身の狭い稼業だが、自分たちとの経験がいずれ、その子らを守るバリアや匂いを嗅ぎ分けるレーダーになると信じている。何かを求めているようにも見える二人。「ひとづくり革命」の事業を受託し委員に任命されたことで、未来に繋がる希望を見いだした二人は、つもりの妊娠を楽しんでいる。公からの認定が、二人を後押しする。

簡単に門の中へ、入って行こうとするチャラ男を呼び止め、ひよこを見せる二人。カラーひよこをテキ屋のボー爺から盗み、死なせた過去を持つチャラ男。二人を認定しにくる理事長。理事長を捜してやってくるガリア夫人と佐川会長。その前を通る黄色いカバーのランドセルの見えない子供達。監督にやってくる監査員。

公認を後ろ盾にしてきたムーだが、監査員に反発し契約書を破棄する。チャラ男も戻り、ムーとトランクを取り合うが、ガリア夫人が加わって、チャラ男の生い立ちが明らかになる。理事長は、チャラ男、ガリア夫人を次々に任命し、自分を監査にきた監査員も任命し救済する。

見えない子供達が石を投げることに憤慨するガリア夫人は、やがて自分の絶望を語り、鮭なら死んでると、石を投げつけ「絶望の果て」の検証に旅立って行く。子らの石に、倒れていた佐川会長が、ゆっくりと服を脱ぎ始め、未来はないが予感だけがあるボー爺に生まれかわる。トランクを持って、「生きてただけや」と、チャラ男と共に、門の中へ落ちて行く。

枯れ葉を踏んで楽しむ二人、フーのお腹は、益々ふくれ幸せそう。空っぽのトランクを持って、チャラ男が門の中から戻ってくる。彼が、理事長から受け取りそこねた封書を渡すと、チャラ男は生き生きして、枯れ葉の中を泳ぐように去ってゆく。何かに任命されたようだ。空のトランクを持って、どこかへ去ろうとする二人、再申請は出来るが、受託契約は、もうどうでも良い。フーに出産の兆候が現れる。

トランクの中のカラーひよこは鳴くだけである。何も知らずに鳴くだけである。なされるがままの子供と色づけされて必死に餌を啄む大人。一匹が何千の命を生み、死んでいく鮭。生んだ絶望と生まれた絶望が、混ざり合い新たな命が生まれてくる。

一昔前、学校帰りの子供を相手に、どこかの陰でこっそりカラーひよこや消えるインクなどを売る流しのテキ屋のおじさんがいた。子供に家に帰って、百円持ってこいという彼らは一体、誰に何を売っていたのだろうか。子供から受け取った百円玉で何を買い、どこに帰っていったのだろうか。不思議な記憶である。

※「ひとづくり革命」は、政府の人生 100 年時代構想会議における「人づくり革命基本構想」からイメージしました。

作者：村川拓也

タイトル：事件

作品概要：

2018年11月16日（金）14時ごろ、京都市内のスーパーで刺傷事件がありました。私はその日、実際にこのスーパーの中にいました。今回の戯曲はその事件を題材にしています。

私はその日、娘をおんぶしながら買物に来ていました。遅い昼ご飯の食材を買おうと、うどんと油揚げを手を持って今からレジに行こうとしていたとき、レジの方で悲鳴が上がりました。私を含め、周りにいた人たちは一体何が起こったのかまったくわからない状況でした。悲鳴が上がったあと、現場の近くにいた店員や客が一斉に走り出し、その場から離れていきました。私は何が起こったのかわからないまま、手に持っていた食材をひとまず近くの商品棚に置いて、いつでも逃げ出せる準備をしました。すると、いろんな方向から「刺された」という言葉が聞こえてきました。すぐに逃げ出さないといけないのに、なぜだか確認したい気持ちになり、私は現場近くまで様子を見に行きました。そこには、男性が一人立ち尽くし、叫び声を上げています。「刺しよった、刺しよった、逃げよった」と言っています。男性のすぐ足下に目をやると一人の店員が下に倒れていて、ドラマで見るとような、血だまりができていました。これを見た瞬間にさすがにもう逃げなきゃと思い、すぐにスーパーから出ました。ここまで時間にするとほんとは一瞬の事だったと思いますが、スーパーから出る前になんとか周りを見渡して、刺された人の姿と同じくらい、周りの人々の状況に驚きました。なぜかというと、人が人を刺した瞬間に、その近くになくて、もっと遠くにいて買物を続けていた人達は、事件に気づかず、まだ買物を続けていたからです。例えば肉売り場とか、魚売り場にいた人はまったく何も気づいていない。私がスーパーを出ようと決めるときですら、後ろを振り返ると向こうの方で、どの魚にしようか迷いながら買物を続けている客の姿があったのです。

すごく奇妙な感じがしました。

私はこの戯曲で描きたかったことが大きく二つあります。一つは、なぜこういった事件が起こってしまったのかを検証したかったということです。それは、私自身が日々感じてきた、現代の消費社会や労働環境の圧迫感に関係しています。過剰な広告や効率化や善意に対し、常に違和感を感じています。もう一つは、今回の事件を自分自身が当事者として経験してしまったことから感じた問いについてです。平日の昼下がり、子供と一緒にスーパーに買物に行く姿というのは、一見平和そのものですが、その平和の中にも常に漠然とした不安を感じてしまうものです。その不安は直接、「刺されるかもしれない」という極端なものではないですが、そういった不安や恐怖と常に隣り合わせにある日常というのを否応なく、突きつけられた感じがありました。あまり考えたくないですが、自分だって何かの拍子に人を刺してしまうかもしれないという、自分自身に対する恐怖もあります。しかし、だからといって、このような事件や恐怖を暴力的に切り捨てるのも違うと思います。切り捨てというのは新しい圧力を生み出してしまうだけです。では、どうすればいいのか。不安や恐怖を切り捨てることなく、平穏な暮らしを送るためにはどのような考え方が必要なのか。何がうまくいってなくて、何がうまくいっているのか。どういう変化を望むべきか。そういった問いを戯曲の中に込めてみたいと思いました。